

(5) コミュニケーション関係学教育における学士力の考察

CCCコミュニケーション関係学運営委員会は、21年7月、9月、10月、11月の4回開催した。コミュニケーション関係学の分野では、「受信能力と発信能力」、「言語及び非言語によるコミュニケーション」、「基礎力及び専門的コミュニケーションスキル」、「メディアの特徴を理解して適切に活用する力」を重点的に身に付けさせることとした。その上で、サイバーFD研究員116人に意見を求め、7人(6%)の意見を踏まえ、以下の通りとりまとめた。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

【到達目標1】

個人や集団、組織、社会、文化におけるコミュニケーションの役割・仕組みを理解できる。

【到達度】

- ① 対人関係をコミュニケーション論的視点から理解している。
- ② 集団や組織における活動をコミュニケーション論的視点から理解している。
- ③ 社会、文化現象をコミュニケーション論的視点から理解している。

【到達目標2】

多様な場面において期待されるコミュニケーションのスキルを身に付けている。

【到達度】

- ① 場や社会的・文化的「文脈」に応じた適切なコミュニケーションスキルを獲得し、実践できる。
- ② 互いの違いを認識し、相互理解を深めるためのコミュニケーションスキルを実践できる。

【到達目標3】

コミュニケーションの諸問題を分析した結果を理論的に考察し、様々な状況で応用できる。

【到達度】

- ① 以下の内容のいずれかについて問題設定し、コミュニケーションやメディア研究の方法論を用いて調査・分析を行い、その結果を考察して様々な状況で応用することができる。
 - ※ コミュニケーションにおけるメディアの機能・特徴、メディアリテラシー
 - ※ 言語と非言語コミュニケーションの機能
 - ※ 対人、集団、組織、異文化間などにおけるコミュニケーションの特性

(6) コミュニケーション関係学教育における情報教育

CCCコミュニケーション関係学運営委員会は、学士力考察をとりまとめた後、22年1月に1回開催した。検討では、演習等での表現方法の適切性、情報倫理と情報の信頼性の識別、データの検索・収集・整理、情報通信技術を用いたプレゼンテーション、適切なメディアの選択・表現、意見交換の場の設定などをとりあげた。

【到達目標1】

コミュニケーションのプロセスにおける情報通信技術の役割を理解している。

【到達度】

- ① 情報検索とソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)などの機能や特徴を理解している。
- ② 情報通信技術を用いたコミュニケーションの特徴を知っている。
- ③ 情報の信頼性を識別でき、情報の引用に関する倫理を身に付けている。

【教育内容・教育方法】

- ①は、情報通信技術の基礎的知識とコミュニケーション学とを関連付けて確認させる。
- ②は、演習・実習形式でプレゼンテーションなどを通じて表現方法の適切性を体験させる
- ③は、講義などにより、信頼性と倫理について、具体的事例を通じて理解させる

【到達度確認の測定手段】

- ①は、レポート、小テストなどで確認する。
- ②は、プレゼンテーションにより確認する。
- ③は、レポートなどで確認する。

【到達目標2】

コミュニケーションのメディアとして情報通信技術を活用できる。

【到達度】

- ① 情報通信技術を用いて情報の検索、収集、整理ができる。
- ② コミュニケーションの目的に沿って適切な情報通信技術を選択し、表現できる。
- ③ 情報通信技術を利用して複数の相手と意見交換するための場を設定できる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、演習・実習などにより、課題を与えてWeb検索や資料検索等によって得られたデータの収集、整理を体験させる。
- ②は、情報通信技術を用いてレポートの作成やプレゼンテーションを実施させる。
- ③は、実習などで多様なメディアを使い分けて場を設定し、適切なコミュニケーションを実践させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、レポート、プレゼンテーションなどにより確認する。